

令和元年度 第3回総合教育会議議事概要

日時：令和2年3月26日（木） 午後4時00分 ～ 午後5時30分

場所：名張市役所2階 庁議室

出席者：名張市長 亀井利克

名張市教育委員会 教育長 上島和久、委員 瀧永善樹、委員 川原尚子、
委員 辻愛、委員 丸下純一

《事務局》

総括監 手島左千夫、総合企画政策室 室長 田中克広、総合企画係長 梶本哲生、
教育委員会事務局 教育次長 高嶋正広、
教育総務室 室長 大西哲、参事 森永美紀子、教育総務係長 金森國康、
学校教育室 室長 山村浩由、教育センター センター長 山崎博史

○市長あいさつ

今日は、令和元年度第3回目の総合教育会議で、今年度最後の教育会議でございます。年度替わりで何かとご多繁の中、お練り合わせをいただきご出席いただいた委員の皆様にお礼を申し上げますとともに、皆様方には日頃からも市政の推進に、また教育行政の充実に格段のご高配をいただき、重ねてお礼を申し上げる次第でございます。今、我々自治体は新型コロナウイルス感染症の対応対策に追われているわけですが、私は政府の新型インフルエンザ等対策の有識者会議の委員を務めさせていただいており、そんな関係で県の委員もさせていただいております。名張市は今月末までは市の主催行事は行わない、或いは、延期するとういうことに致してございました。学校の行事についても最小限というか短時間で、そして規模を縮小してやるとしてあったわけですが、これも色々な影響が出てきておりますことから、再開していこうかとういうことに致しているわけですが、これは今日の一項目目でございますけども、事務方の方からその考え方を述べさせていただきますので、また、ご意見等ございましたらおっしゃっていただければと思っております。それと名張市は令和2年度、3年度で孤立ゼロ社会に向けた取組をしていこうと致しているところでございます。これは二つの事業がございます、一つは調査研究事業でございます。これは、国と医療経済研究機構、東大の生産技術研究所、そして国立情報学研究所とタックを組んで調査研究をするのですが、AI付きのロボットを独居老人の方、老々介護、それから80歳の方が50歳の方を面倒見ている8050のご家庭、引きこもり、それから不登校のお家に置かせていただいて、何に悩んでいるのか、何故こうなったのか、どういう事を望んでいるのか、ということ聞き出していく。国の方でこういう政策は、まったく無いに等しい。国の予算を使って、まず1年目は高齢者の方で、2年目に引きこもりであったり、それから不登校であったりと。実は不登校のお子さんは追跡調査しましたら、やっぱり生活困窮になる方の割合が高いとういうことになっておりますので、早く社会参加していただけるような、そんな環境を作っていかなければならない。いずれにしても寄り添い、そして伴走型の支援が必要になります。そういうのは、誰がしていくのかとういうことになってくるのですが、それが二つ目の事業として社会的処方師を養成する。これは県の予算を使わせていただいてやります。リンクワーカーが色々な所へ繋いでいく。親と子供だけでは、なかなか解決できないので、第三者が入った方が良いでしょう。リンクワーカーの養成で、一定の研修を受けたら知事が認定証を出す。この二つの事業を2年間やっ行って行こうと致しているところでございます。

それでは早速でございますけども議事に入らさせていただきます。それじゃ第1項目、「新型コロナウ

ウイルス感染症への対応」につきまして、事務局から説明願います。

1. 新型コロナウイルス感染症への対応について

【事務局説明】

(市長)

以上でございますが、何かご質問なりご意見ございましたらおっしゃって下さい。

(教育委員)

小学校の休校の判断を早めにしていただきまして、結果的に本当に良かったと思います。そして学童保育を柔軟に午前中からしていただくなど、周りの方の支えがあって、ここまでやっていただいたと思います。また、カレーのボランティアということで、いろんな地域の方のご支援があってここに至っていると思います。このまま本当に収束して欲しいのですが、万が一環境が変わったらどのような体制といいますか、どう判断していくのか、教えて頂きたいと思います。

(事務局)

名張市では、この新型コロナウイルスの感染症に対する対策本部を立ち上げております。国の方でも法律に則って感染対策本部を立ち上げると聞いており、これは強制力の持った対策本部を立ち上げると聞かせていただいています。そういった形でまず国としての考え方が示され、それを受けて三重県も新たな対策を法律に則って、一定基本的な方針が立てられることとなります。私共もそれを伺いながら、名張市の現状を把握した中で、名張市内に感染者出てくる事態が起これば、この名張市対策本部で国、県の方針を踏まえながら、しっかりとその対策を早目早目に取りらせて行くように会議をして、決定をさせていただくということを考えております。また、その際には、当然、伊賀保健所など、いろんな方々のご意見も頂戴しながら対策を取って行くというふうに考えております。

(教育委員)

ありがとうございます、よろしくお願い致します。

(市長)

今は、新型インフルエンザの対応のマニュアルあり、それに沿って動いている。本市は対策本部も立ち上げており、そこで対応・対策を取っている。学校についても、校長先生始め先生方が万難を排して、万全を期して、学校を始めていただかなければならないと思っている。

(教育長)

文科省からも3月24日にガイドラインが出されて、ホームページに載っており、これに沿って、適切に進めて行きたいと思います。

(教育委員)

児童生徒が新型コロナウイルス感染に関する不安等から出席を拒む場合、欠席扱いにしないという配慮ですが、実際に、こういった例が起きているのかどうか。また、その辺の判断と言うのは非常に

難しいと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

(事務局)

当該の児童生徒が体調不良で、風邪気味であったと仮定して、それがコロナかどうか分からない場合、通常は病気欠席ですが、風邪であったとしても、今回はコロナの関係があるので、出席停止という扱いをすることが校長で判断出来るという事です。一定子どもたちに配慮させていただくという意味合いです。

(教育委員)

昨日、久しぶりに子どもたちが学校へ集まって終業式をしていただいたのですが、子どもたちも大分喜んで学校でいたという話も聞かせていただいています。資料の中で「春季休業中は次のように対応する」については、学校へ行った時の内容は書かれているのですが、家庭での過ごし方については、学校又は教育委員会の方から改めて指示・指導をしていただけるのでしょうか。

(事務局)

ここには、その通知は載せてないのですが、家庭での過ごし方についても指導・助言をしているところがございます。

(教育委員)

子どもたちは、野外に出て遊んでもいいようになっているのですか。

(事務局)

遊び方も、今までと同様ではなく、一定の距離感を保つであるとか、集団にならないようとか、一定の注意事項があるもので、そういったことを守りながら、心身の健全の部分もあるので、体を動かす事についてはこちらが止めるようなことは致しておりません。

(教育委員)

他市町村の例ではショッピングモールなどで、午前中から小学生と思われる児童生徒がたむろしていたりすることがあるわけですがけれども、名張市ではそのあたり何か見ておられるのでしょうか。また、対応は、何かされておられるのでしょうか。

(教育長)

昨日、補導センターの職員に聞くと、休校中、児童生徒をほとんど見かけなかったという事です。ほとんどの児童生徒が家で自宅待機し、真面目にしているという補導センターの職員の声です。また、高校生も、部活もなかったことありますが、あまり見かけなかったとのこと。しかし、これが長期間に及んでくると子供もストレス溜まってくるので、補導センターの補導員には、また、今まで以上に回って下さいとお願いをさせていただきました。

(教育委員)

卒業式は、縮小・短縮と言う形ではありましたが、無事開催していただいて本当にありがたく感じました。凝縮された卒業式という感じで、それはそれでとても心に残る卒業式であったと思いま

す。4月から通授業常になると、いろんな不安な部分はまだあるかと思います。たまに体操服を着ている子を見かけたりすることがありますが、中学校も高校も部活動はまったくお休みという形でずっと来ているのでしょうか。部活動がなくて、かなりストレスを感じているのではないかと思います。実態はどんな感じでしょうか。

(事務局)

部活動については、休校中の期間は、もちろん停止の状態で行ってまいりました。学校もしっかり守っていただいておりますので、何か別の活動があったのではないかと想定します。資料にも記載してありますように、春季休業中、それと入学式以降のことについては、平日に限るとということと2時間以内に時間を制限します。具体でいうと柔道の取っ組み合などは、すごく近距離になるのでメニューを考えないといけないので、そういった制限は伴いますが、出来る限り子どもが活動する場面を担保してあげたいので、一定の活動は認めるという事でございます。土日は部活動をいたしません。

(教育委員)

大人の見守り、市民の方の子どもたちに対する見守りが大事だと思うので、大人としてどのように注意したりとか、見守ったりとかしたら良いかを市報などで啓発していただけたらありがたい。

(事務局)

これらの内容については、市のホームページの方に学校関係だけではなく、コロナ関係全般にわたって周知しています。市教委から学校の方に通知している内容については、当然、保護者或いは地域関係、例えばコミュニティ関係であれば、その関係者にしっかり周知するとともに、協力をお願いしているところです。

(教育委員)

常に状況が変化すると思いますので、その辺の所をよろしくお願いします。

(市長)

他にどうですか。よろしいですか。それでは、2項目『次期「名張市教育大綱」の策定について』を議題とします。事務局、説明をお願いします。

2. 次期「名張市教育大綱」の策定について

(事務局 説明)

(市長)

はい。説明は以上ですが、来年度、2020年度中に教育大綱改訂版を出すという事でございます。この際に何かご意見ございましたら、どうぞ、おっしゃっていただけたらと思います。まだ1年ありますが、どうですか。この教育会議は、次回いつ頃開催になるのか。

(事務局)

まだ日程的には考えておりませんが、例年では多分6月頃が第1回目になるかと思います。

(市長)

6月頃から審議を始めてもらうのか。

(事務局)

そうです。

(市長)

その時まで委員さん方にも、大綱には、こういう項目が必要だとか、こんなことはこう改めたほうが良いというのがあると思うので、一度見ていただいて、6月にまたご意見等いただければと思います。そういう事でよろしいですか。よろしくお願いします。それでは3項目目、「学校生活満足度調査(Q-U調査)について」を議題とします。

3. 学校生活満足度調査(Q-U調査)について

(事務局説明)

(市長)

全国平均より大分良いと聞いていますが、これは何で良かったのかという分析は出来ているのか。Q-U調査の満足度、特に中学生の満足度が全国平均の倍ぐらい高いのは何故なのか。

(教育長)

名張市は大変ありがたいことに、だんだん学年上がるごとに良くなっています。これはやはり、いろんな取り組みの成果が出てきているのではないかなと思うところです。特に中学校の成績・学力も体力も上がって来ています。このQ-U調査も2回やることによって、こんなところに気を付けないといけないということが分かります。成績だけではなく、そういう要因そのものがあるわけです。その辺の事をみんなが共有する。学校現場の先生方と管理職、そして教育委員会・教育センターがともに共有をしてきちっと分析をする。また、教科担任制で一つの学級を一人が見るのではなくて複数の先生が見て行きながらやることによって、効果が上がっていく。そういう事を含めながら小中一貫教育という小学校の良さと中学校の良さをきちんと踏まえてやるのが大事なことであり、それがだんだんと功を奏して来たのではないかなと思っています。

(市長)

きめの細やかな指導を切れ目なくやって行く、その成果であると。これについて何かご意見ございますか。はい、どうぞ。

(教育委員)

この調査は個別の記名式でしょうか。番号でどの生徒なのかわるようになっているのですか。

(事務局)

これは、記名式でどの子がどの位置にというのが全て分かるようになっておりまして、先程のシー

ト以外にもいろんなデータがあり、個別の名前が出た中で、担任が把握できるようにしております。

(市長)

不登校児童の調査した時に、不登校になっている理由の中で一番多かったのが友達関係、これははじめの問題です。二番目に多かったのが教師との関係で、パワハラ、セクハラです。知らず知らずの間にそういうことになっている場合があります。この調査が記名式で番号が分かるようになっていれば、そういった対応策も講じ易いと思います。

(教育委員)

記名式にすることによって、本当の事が書けなかったりすることがあるのではないかと少し心配に思うのですが、このあたりはいかがでしょうか。

(事務局)

おっしゃるとおりでアンケートは記名式であればそういう事が起こるし、無記名であれば今度是对策が取りにくいということになります。しかし、この調査は、小学校1年生から始まって中3までずっとやっていますので、そのまま書いて来る子が多いです。ただし、全員ではもちろんないので、そのことも含め、この結果を利用するということでございます。

(教育委員)

こうして10年ほど継続してやってもらって、非常にいろんなデータが揃ってくるし、それに対する先生方の対応もきちんと出来るようになってくるので素晴らしいと思います。その分、指導主事の先生やら、学校の先生方も大変な力が必要になると思います。市も財政難ですけども、この調査を継続してやっていただいたらなと思います。よろしくお願いします。

(市長)

これは、先生の評価でもありますので、そういう緊張感の中でやってもらうのは良いと思います。

(教育委員)

大学の学生満足度調査みたいな事で、名張市で実施されているやり方で非常に優れているものではないかなと拝察します。私の所属先の大学でも、それぞれの教科の担当教員に対しての授業評価アンケートをしています。教員の方も評価にさらされる中で、学生の意識というものについて敏感にならざるを得ない状況になっています。そのことは授業の質的な向上に繋がるので、学生の満足度が向上することで学校、大学に積極的に来るという事に繋がる訳ですから、こういった調査を今後も継続して、統計的なデータをとり続けていただければと思います。

(市長)

私も大学で授業をする時に必ず終わったらアンケート調査を取ってもらい、送ってもらうようにしています。それは次の授業の参考になるので、教師にとって物凄く参考になると思います。

(教育長)

学級満足度調査が、全国的に学年が上がるとすべて下がってくるのですが、名張は逆転していま

す。何故、そうなるのかとよく言われますが、これは、一つのことだけでは無く、諸々の事が総合的に積み重なったことでなっており、これを継続していくことが大切だと考えます。

(教育委員)

児童生徒たちが非常に学校に愛着を持っていることがこの調査結果から窺える気が致します。教師と児童生徒との間のモラル関係を良くすることで、教育効果の向上に繋がるという事なので、その信頼関係を上手に作れている例ということで非常によろしい状況にあるだろうと思います。やはり一つは地域で皆さんのお力で子ども達を支援するようなことの中で子ども達が育っていく。こういうことが小さい学年のうちから児童生徒の中で非常に安心感に繋がっているのではないかと思います。

(教育委員)

全国平均からこれだけ優れているのは、現場の先生方がご尽力された結果だと思います。その辺りのことをこれからもよろしく願いますという事で周知していただいたらありがたいと思います。

(教育長)

学力は、学校によって年度ごとで物凄い差があります。そこが悪いからダメというのではなくて、こんな事が良く分かり、次に移行していくのに良いことを知ったという感覚でしてくださいという話を私は常にしています。

(市長)

他によろしいですか。それでは、4項目目「児童生徒支援等の取組について」を議題とします。

4. 児童生徒支援等の取組について

【事務局説明】

(市長)

不登校と長期欠席の定義はどうなっているのですか。

(事務局)

不登校について文科省の定義によりますと、不登校の生徒は何等かの心理的、情緒的、身体的、社会的要因・背景により、登校しない、又はしたくとも出来ない状況にあり、年間30日以上欠席した者の内、病気や経済的な理由による者を除いた者という事になっています。

長期欠席の理由で何があるかという、不登校、経済的理由、病気、その他の4種類に分かれています。この4種類を全部まとめて長期欠席という考え方で、不登校は、その中に含まれています。

(市長)

外国の方が増えてきて、市内で今はもう千名を超えています。児童生徒も増えていて、できる限り個別指導が出来るようにしていかないといけないと思っていますが、先生の数がちょっと少ないので、これも何とかしたいと思っています。

(教育委員)

今、支援学級の数とともに、児童数も増えており、先生方の手が回らないということがあります。苦しい財政の中だと思いますが、実態に応じて支援される先生方の増員を考えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

(教育委員)

指導員が4人いてくれますが、この方らは日本人ですか。

(事務局)

はい、日本人です。指導して授業するので免許は一定必要でございますので、日本人の先生で免許持ちと考えています。

(教育委員)

現地語を知っているのか。

(事務局)

基本的に現地語を全部しゃべれるわけではございません。英語は万国共通語として一定話せる方々が多いのですが、全ての母国語をしゃべれるという状態になっていません。元々日本語を指導していくという観点から、母国語をしゃべらずに日本語で指導していくのが一番身に付いていくのが早いと考えています。

(事務局)

付け加えて、一つのツールとしてタブレットを小学校中心に配布していますが、その中で、日本語と母国語を変換するソフトなども上手く活用しているということもございます。

(教育長)

個々にこういう課題を抱えている子ども、日本語指導或いは特別支援が必要な子ども、そして不登校の子どもがいるわけですが、そういう子どもたちの声をなるべく早くに拾い上げて、適切な処置をしていかなければなりません。個別の指導が増えて来ているということの中では、非常に難しいものがあって、先生の方だけでは出来ないことがあります。名張市は連携の中でエリアディレクターも置いてあるわけでございますけども、これだけを網羅することは非常に難しい状況です。しかし、これを放っておいたらいけないと思うので、早い段階で手を掛けて、きちっとやって行くことが必要であると思います。

来年度、特別支援通常学級に在籍する子どもに対する自校通級の教室が北中に出来ます。また、一番大きな小学校であるつつじが丘小学校にも出来て、名張市に二つの自校通級の教室が出来ます。課題のある子どもたちがここでやります。場合によっては外国の子どもも全部通常学級に入って来るのは難しいので、そこらもやって行かなければならないと思っているところでございます。

こういう何らかの支援が必要になることが今後増えるとしても、コミュニティスクールがどんどん進化していますので、地域の方にお手伝いしていただくような取り組みをしていくことがこれから大事ななと思っています。

(市長)

他にどうですか。

(教育委員)

特別支援学級の児童生徒数と、通常学級で特別な支援が必要とする生徒を足し合すと小学校で14.8%といったすごい数になりますが、そのことについて分析してくれているのですか。

(市長)

発達支援についても、こういう教育が始まってきてので、多くなったということもあるし、それだけでなくも多なっているのもあるかもしれない。どちらも正解と思う。難しい問題ですけど、分かりますか。

(事務局)

色々と分析していますが、個別な対応が必要な子どもたちが増えていることは事実ですので、適切な対応を取って行かなければならないと思っていますところ。

(教育委員)

財政的に大変だと思えますが、個々に応じた教育をしてもらうため、先生方一人一人の力には限りがあるので、人海戦術で行かないといけないと思えますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(市長)

よろしいですか、そしたら、これはこの程度にして、その他の項で何かあればどうぞ。よろしいですか。それでは、長時間どうもありがとうございました。